

決 議 文

京王電鉄京王線は、昭和44年に都市高速鉄道第10号線として都市計画が位置付けられ、平成14年に都市計画変更された調布駅付近の連続立体交差事業が平成26年に完了し、平成24年に都市計画変更された笹塚駅～仙川駅間では連続立体交差事業が進行中で、両事業により計41箇所の踏切が除却されることとなる。

その一方で、同都市計画の区間では、つつじヶ丘駅・柴崎駅付近の5つの踏切すべてが、ピーク時1時間あたりの遮断時間が40分以上のいわゆる「開かずの踏切」として取り残されている。そのため、周辺地域において、交通渋滞の発生や地域の分断、小学校の通学路でもある当該踏切の事故の危険性など、市民の日常生活に支障を及ぼしている。

このような中、令和3年4月には、この5つの踏切が、国土交通省により踏切道改良促進法に基づく「改良すべき踏切道」として指定された。これを受け、調布市は、令和7年度末までに「地方踏切道改良計画」を作成し、国土交通大臣へ提出すべく、踏切道の改良方法について検討している。

具体的に、これまで調布市は、国土交通省から令和4年度に連続立体交差事業調査費の採択を受け、市が主体となって、学識経験者、京王電鉄株式会社の参加・協力のほか、オブザーバーとして国土交通省及び東京都の助言をいただきながらつつじヶ丘駅・柴崎駅周辺地区における交通環境改善に関する検討会を開催し、検討を進めている。

そうした中、令和6年3月に調布市は、交通環境改善に向けた取組について「踏切の課題・地域の課題やまちづくりへの効果」を勘案して比較検討した結果、当該区間の抜本的な踏切対策としては、鉄道の連続立体交差化が望ましいとの中間報告を取りまとめた。

また、調布市議会では、令和6年第4回調布市議会定例会において、「開かずの踏切解消の取組を推進する決議」を全会一致で決議された。

加えて、地元住民においては、令和5年度につつじヶ丘駅周辺及び柴崎駅周辺で、それぞれ「つつじヶ丘まちづくり準備会」、「柴崎駅と周辺街づくり協議会」が設立され、地元まちづくりの機運が高まっている。

以上を踏まえ、安心・安全で快適なまちを実現していくには、開かずの踏切の抜本的な対策となる連続立体交差事業による都市交通の円滑化の推進が重要であり、京王電鉄京王線（つつじヶ丘駅・柴崎駅周辺地区）の連続立体交差事業の推進に向け、地域住民、調布市議会、調布市が一体となって、関係機関に対し格別の配慮がなされるよう強く要望するとともに、地域の機運醸成に向けた取組をより一層推進することをここに決議する。

令和7年1月21日

京王電鉄京王線（つつじヶ丘駅・柴崎駅周辺地区）
開かずの踏切解消促進協議会